



吉尾峠。山間に暮らした人の面影を辿る。

會津若松建設事務所 祭俱樂部「やってみっ会」活動体験記

Vol. 25



巡見使の道「吉尾峠」のご案内

吉尾峠はかつて奥会津と会津城下を最短で結ぶ主要な街道でした。戦国時代には伊達軍が、江戸時代には巡見使が、そして戊辰戦争には西軍が越えた歴史の道です。昭和20年代半ばまで人々が行き交う賑やかな街道でしたが、只見川電源開発事業や高度経済成長など大きな時代変化の中で道路整備が進み、昭和村と只見町は近くで遠い存在になりました。

天明8年(1778年)古川古松軒著「東遊雜記」によれば、巡見使の一行が布次から吉尾峠を越えて野尻に止宿している。吉尾峠について「布次より山道三里八町といえども四里あまりあり、野尻に止宿。どにもかくにも深山幽谷のみにて、行けば行くほど山深くして、広大なることうごかりなく、会津百方石といわねせしこと宜なり。」と記録されている。

歴史街道 吉尾峠絵図



福島県大沼郡昭和村中向区



歩く街道「吉尾峠」を探索。

2010,11,13

古の生活や地元の思いを一步一步感じてきました。

只見と昭和を結ぶ街道を、地元の方と共に歩きました。学校や集落、田んぼ跡があった場所の説明を受けながら、かつての人々の暮らしを感じる事が出来ました。事務所からは、鈴木課長、小野寺課長、加澤技師が参加しました。



吉尾峠の頂上にて狼煙をあげる



この資料に関する問い合わせ

企画調査課 唐橋 薫 電話 0242-29-5455